

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生活の場としてグループホームの在り方を利用者 に提供できるよう、地域事業へ積極的に参加して いる。	○	・地域住民への「挨拶運動」 ・夏祭り ・クリスマス会
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時、毎月の定例会議に運営の理念について毎 回話し合っている。	○	・朝礼 ・定例会議
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にしたい理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んで いる	家族会、運営推進会議、その他の各々の行事への 参加を家族や地域住民に促し、運営理念を理解し てもらおうようにしている。	○	・家族会 ・運営推進会議 ・夏祭り ・クリスマス会
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように 努めている	事業所内で「挨拶運動」を地域住民に対して行っ ており、地域の皆さんのお手伝いやご協力を積極 的に受け入れている。	○	・地域住民への「挨拶運動」
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活動 に参加し、地元の人々と交流することに努 めている	きちんと「町内費」を支払い、あらゆる地域の事 業に積極的に参加し、地域に根ざした施設となる よう心掛けている。	○	・夏祭り ・クリスマス会 ・天満宮(近くの神社)の草刈 ・隣接する農地の所有者に農作物の育成方法を教授して もらっている。 ・隣地の農地が休耕田になっている為、草が生えぬよう 管理している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者を施設に閉じ込めないよう、地域の高齢者との交流を兼ねて、その高齢者が育てたきれいな花木を見学に行く。	○	・ご近所宅への訪問 ・その他
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われる定例会議に於いて具体的な改善策を検討している。	○	・定例会議
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて話し合われた内容を毎月行われる定例会議に於いて議題に挙げ、そこで話し合われた内容を逆に運営推進会議にフィードバックしている。	○	・定例会議
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携が足りない。		・情報交換
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一昨年までそれらの制度や運用される利用者がいたので充分、理解している。	○	・アステラスに何度となく、接触をもった。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの整備・掲示は勿論、毎月行われる定例会議に於いて勉強会を開いている。	○	・マニュアルの整備・掲示 ・定例会議

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計画担当責任者である介護支援専門員や管理者がきちんと説明を行っている。	○ ・契約に於ける介護支援専門員又は管理者の同席
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を組織し、連絡を密にしており、又運営推進会議に於いても利用者やその家族に対し、積極的に意見の徴収を行っている。又日々利用者の意見は、常に細かな対応をしている。	○ ・特定非営利活動法人醍醐会総会 ・運営推進会議 ・家族会
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や職員の異動に関しては、「醍醐の森川崎だより」を季刊で発行しており、健康状態は、毎月、個々に生活状況を含めて書面・電話連絡で対応している。金銭管理に関しては、個々に出納帳を整備している。	○ ・「醍醐の森川崎だより」の発行 ・家族への報告書郵送 ・個々の利用者の金銭出納帳
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を組織し、連絡を密にしており、又運営推進会議に於いても利用者やその家族に対し、積極的に意見の徴収を行っている。日々利用者の意見は、常に細かな対応をしている。	○ ・特定非営利活動法人醍醐会総会 ・運営推進会議 ・家族会
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる定例会議に於いて運営に関して管理者又はそれに準ずる職員が議長を務めて職員の意見を運営に生かしている。	○ ・定例会議
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝礼や毎月行われる定例会議に於いて利用者やその家族の動向により出勤表の変更、それに伴う話し合いの場としている。	○ ・定例会議 ・朝礼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>認知症専用通所介護、インフォーマルな宿泊施設を併設し、直接の入居をさせず、まず施設に慣れ、人に慣れるように併設される事業所に配置される共に職員も異動して行き、スムーズな入居を考慮されている。</p>	<p>○</p> <p>併設されている事業所と同様の構造を持っていて施設的设计・建設時点からリロケーションダメージを最大限に軽減するように配慮されている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修を積極的に行っており、管理者又は、その他の職員が研修を受けた場合、毎月行われる定例会議に於いて報告・発表し、その情報を共有するようにし、新人職員は必ず「醍醐の森山川」で研修を行っている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設外研修の参加 ・定例会議 ・醍醐の森山川への研修
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>栃木県高齢者小規模ケアネットワークに参加している。</p>	<p>○</p> <p>民間福祉組合設立を目指す</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月行われる定例会議に於いて職員の負担を軽減できるような器具の購入について要望を話し合い、その定例会議後毎に食事会を開催し、職員相互の親睦を図ると共に管理者とのコミュニケーションの場として忌憚のない意見を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議又はその後の食事会
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月行われる定例会議に於いてTQC、及びRATプログラムを利用して職員個人として、又は法人に対する意識向上を図っている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議 ・TQCプログラム ・RATプログラム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症専用通所介護、インフォーマルな宿泊施設を併設し、直接の入居をさせず、施設に慣れ、人に慣れることを目的として併設される事業所に配置される共に職員も異動して行き、スムーズな入居を考慮されている。	○	併設されている事業所と同様の構造を持っていて施設的设计・建設時点からリロケーションダメージを最大限に軽減するように配慮されている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症専用通所介護、インフォーマルな宿泊施設を併設し、直接の入居をさせず、施設に慣れ、人に慣れることを目的として併設される事業所に配置される共に職員も異動して行き、スムーズな入居を考慮されていることを家族に充分説明の機会を設けている。	○	併設されている事業所と同様の構造を持っていて施設的设计・建設時点からリロケーションダメージを最大限に軽減するように配慮されている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症専用通所介護、インフォーマルな宿泊施設を併設し、直接の入居をさせず、施設に慣れ、人に慣れることを目的として併設される事業所に配置される共に職員も異動して行き、スムーズな入居を考慮されている。	○	併設されている事業所と同様の構造を持っていて施設的设计・建設時点からリロケーションダメージを最大限に軽減するように配慮されている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症専用通所介護、インフォーマルな宿泊施設を併設し、直接の入居をさせず、施設に慣れ、人に慣れることを目的として併設される事業所に配置される共に職員も異動して行き、スムーズな入居を考慮されている。	○	併設されている事業所と同様の構造を持っていて施設的设计・建設時点からリロケーションダメージを最大限に軽減するように配慮されている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を活用しながら、職員は、利用者がホームを生活の場としていることを理解するよう毎月行われる定例会議や朝礼で話し合い、支え合うように接するよう指導している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議 ・朝礼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会を組織し、イベントへの参加を促進し、読書会等を開催していただいている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会 ・夏祭り等のイベントの開催のお手伝い ・家族の有償ボランティア、無償ボランティアの受入
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>毎月の報告書を郵送、又は電話連絡で家族に連絡し、相互の理解を深めるようにしている。それによって家族の入居に至った経緯を理解し、そうした関係を修復させるように支援している。特に家族会の開催の際には認知症の理解を家族に深めてもらう為にその勉強会を開催した。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会 ・報告書の郵送及び電話連絡等
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外来者は、受入を積極的に行い、天気の良い日は、施設の広い庭や花壇と一緒に散歩できるようにしており、「こんないい施設に居られて幸せだ。」と利用者にも外来者にも思わせるように環境整備に力を入れている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外来者の積極的受入 ・庭の整備 ・花壇の整備
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>普段、過ごすホールの座る位置、食事時の座る位置を利用者相互の関係から配慮し、一方、孤立感を感じさせないよう各利用者の居室の相互訪問を促し、そこで2～3人の集団を作り、お茶を飲んだりしている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座る位置の配慮 ・居室相互訪問
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ある利用者が入院し、その時点で契約終了となる訳だが、3箇月という長期にわたって家族にお願いされ、特に本人の当施設に戻りたいと言う希望により居室を確保していた。結局、本人は亡くなったが、その家族から非常に感謝された。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会 ・本人やその家族からの要望の最大限の配慮

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の場としてあらゆる機能・環境を有し、本人の希望により、その選択肢を多岐にわたるよう日々、支援している。	○ ・園芸 ・犬や猫の飼育 ・農作業 ・手芸 ・その他
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの担当ケアマネジャーや本人・家族を含めてカンファレンスを開催し、その後センター方式を活用し、利用者宅を訪問し、本人や家族から嗜好によって食事の献立や毎日の暮らしに張りが持てるよう様々な作業等を提示し、選択して支援するようにしている。	○ ・カンファレンス ・センター方式の活用 ・利用者宅の訪問
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し、利用者宅を訪問し、本人や家族から嗜好によって食事の献立や毎日の暮らしに張りが持てるよう様々な作業等を提示し、選択して支援するようにしている。	○ ・センター方式の活用 ・利用社宅の訪問
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、介護支援専門員が統括しながら、それぞれの利用者を職員の担当制とし、家族や他の職員から詳細な情報を挙げて利用者本人にとって最良な環境で暮らせるように作成している。又少しでもの空いた時には細かい話し合いの機会を持つように努めている。	○ ・ケアプラン作成の担当制
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	レベル低下や転倒による入院等の変化があった場合には家族、担当職員又はその他の職員等でケース会議を開催し、その変化に応じた新しいケアプラン作成を行っている。	○ ・ケアプラン作成の担当制 ・ケース会議の開催

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランが常時、見られるようになっている為、ケアプランに繋がる気づきや新たな実践を試みた時には結果等をケース記録に記載し、新たなケアプランに繋げるように職員間でその情報を共有している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成の担当制 ・ケース会議の開催
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えば、家族が遠方の場合、一緒に宿泊できるように来客用布団を完備している。又その家族が多数になる場合、法人のグループ会社内に旅館を運営しているのでその送迎は勿論、一緒に宿泊できるように支援している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・来客用布団完備 ・重度障害者・高齢者専用福祉旅館 「醍醐の森」・「醍醐旅館」
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	開所当時は、地域の民生委員の協力、ボランティア（体操、フラダンス、大正琴、その他）等を積極的に受入れ、利用者に有意義な時間を過ごすように支援していたが、利用者の意向や必要性に応じて支援できるようになって来た。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・体操 ・フラダンス ・民話 ・マンドリン演奏会のお出掛け・その他
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じる為、他のケアマネジャー、サービス事業所と話し合う為に連絡会に法人加盟している。そうすることによって、その他の付加できるようなインフォーマルなサービスの情報を得て支援している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・あしかが介護支援専門員連絡会の法人加盟
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	かつて宿泊事業の利用者で被害妄想が酷く、本人の意向により又、必要性を感じ、当施設の受けているサービスの状態を告発したいと言うので職員と共に地域包括支援センターを訪問し、問題解決したことがある。	○	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には家族にバイタル、生活経過の記録を持参してもらい、主治医に渡し、医療機関からの返事を頂いている。	○	・後方支援医療機関としての提携契約
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医、つまり精神科の専門医の受診を勧め、初診の場合、又は必要に応じて詳細な生活経過記録、随伴症状等の記録を所持して職員が同行するよう支援している。	○	・富士見台病院との後方支援医療機関としての提携契約
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設されている認知症専用通所介護の看護職員に相談しながら支援している。又、必要に応じて後方支援医療機関と提携契約に基づいてその看護職員に相談して支援している。	○	・認知症専用通所介護 ・後方支援医療機関としての提携契約
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ある利用者が入院し、その時点で契約修了となる訳だが、3箇月という長期にわたって家族にお願いされ、特に本人の当施設に戻りたいと言う希望により居室を確保し、医療機関と連携してホームでの看取りをできるようにした。結局、本人は亡くなったが、その家族から非常に感謝された。	○	・後方支援医療機関としての提携契約
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医から終末期になっていることを知らされている利用者に対して家族と職員との話し合いをもち、方針を決定し、その話し合われた内容について同意書を作成し、署名捺印をもらい、それを共有して支援している。	○	・終末期に於ける同意書作成 ・後方支援医療機関との提携契約
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対応してその利用者の今後の変化を予想し、事故防止に努め、各個人のプランに記載している。終末期に対応して定期的な往診やその他の医療的措置（例えば、酸素ボンベの設置等）を事前に対応できるように支援している。	○	・終末期に於ける同意書作成 ・後方支援医療機関との提携契約 ・医療器具の搬入スペースの確保等

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>・併設されている認知症専用通所介護事業所・宿泊施設の設置</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>・プライバシー保護マニュアルの整備、掲示</p> <p>・定例会議</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>・園芸</p> <p>・農作業</p> <p>・食事の献立作り</p> <p>・犬や猫の飼育</p> <p>・手芸</p> <p>・その他</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>・園芸</p> <p>・農作業</p> <p>・食事の献立作り</p> <p>・犬や猫の飼育</p> <p>・手芸</p> <p>・その他</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>・美容師の職員の雇用</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	・農作業で畑に作物を育てる ・お出掛け買い物
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	・ティーサーバー ・ドリップコーヒー
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	・カードインデックスの導入
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	・認知症専用通所介護 ・夕方入浴
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	・月に1台ずつ、介護用ベッドを購入し、現在12台所持。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸 ・農作業 ・食事の献立作り ・犬や猫の飼育 ・手芸 ・その他


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>それぞれの利用者の金銭管理は、職員が行っているが、実際に必要なものがあつたり、本人の希望するものがあつた場合は、職員と共に買い物に出かけるようにしている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭出納帳の作成 ・お出掛け買い物支援
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>お出掛け介護が非常に多く、気象条件にも左右されるが、利用者の希望に応じて一日、一回は庭の散歩や施設外散歩を心掛けている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お出掛け介護 ・施設の回りの環境整備 ・畑の管理
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>お出掛け介護でも非常に遠方まで出掛ける機会を多く持っている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県館林市の条沼へ白鳥を見学 ・佐野市のコスモス畑 ・名草の蛍鑑賞 ・マンドリン演奏会のお出掛け・その他
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が希望した場合、家に電話できるように支援している。又毎年、利用者の家族やその他の人々に年賀状や暑中見舞いを職員が手伝つて送っている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年賀状の作成 ・暑中見舞いの作成
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>外来者は、受入を積極的に行い、天気の良い日は、施設の広い庭や花壇と一緒に散歩できるようにしており、「こんないい施設に居られて幸せだ。」と利用者にも外来者にも思わせるように環境整備に力を入れている。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来者の積極的受入 ・庭の整備 ・花壇の整備
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルを完備し、毎月行われる定例会議で勉強会を開催したり、その見直しを行っている。又、身体拘束をしなければならぬ状況に陥つた場合の同意書に署名捺印もらっている</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束排除マニュアルの完備 ・定例介護 ・身体拘束に関する同意書の完備

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	・身体拘束排除マニュアルの完備 ・定例介護 ・身体拘束に関する同意書の完備
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○	・中庭の設計 ・点呼
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○	それぞれの利用者の行動パターンの把握
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	・マニュアルの完備と定例会議に於ける見直し
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	・普通救命講習
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	・消防訓練 ・災害マニュアルの完備 ・避難訓練参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会に於いて大まかな説明を行い、又それぞれの家族に毎月郵送する報告書に記述したり、電話連絡等や直接来所してもらって、その対応策を話し合うようにしている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会 ・報告書作成 ・電話連絡
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	カードインデックスを利用して、情報を共有し、体調の変化や異変を常時、職員がその記録から推し量って、必要に応じて通所介護の看護職員にスーパーバイズを受けている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・カードインデックスの導入
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、処方箋のコピーを担当医からもらい、それに記載されている事項を理解し、それが不可能な場合は、通所介護の看護職員からアドバイスを受けるようにしている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・処方箋のコピーを担当医からもらう ・通所介護の看護職員からアドバイス
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お出掛け介護、体操、散歩等を行うことにより腸の働きを活性化させ、水分や食物繊維をそれぞれの利用者の状態を考慮して、摂取できるよう支援している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・お出掛け介護 ・施設の回りの環境整備 ・畑の管理 ・食事や水分摂取の記録
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	それぞれの利用者は、朝食、昼食、夕食後の歯磨きを必ず行い、夜間は、入れ歯を外し、洗浄液に浸している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の口腔ケア ・入れ歯の夜間洗浄
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の単位計算、カロリー計算をして調理し、その分量も配慮している。カードインデックスを活用して、水分量を排泄とバランス計算して脱水状態に陥らないよう配慮している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・単位表 ・カロリー計算 ・カードインデックスの活用した水分量計算

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関してそれぞれマニュアルを完備している。	○	・感染症のそれぞれマニュアルを完備
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理者は、食品衛生指導員であり食品衛生に関して指導的立場にあり、マニュアルを完備し、毎月行われる定例会議に於いてその見直しを行っている。	○	・食品衛生研修の参加 ・食品衛生マニュアルの完備 ・定例会議
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の周りは、常に整備され、エントランスにはそれぞれの季節の花を置いている。1146坪の敷地内には、20箇所以上の花壇があり、利用者やその家族、近隣の住民が楽しめるよう公園のようになっている。	○	・徹底した環境整備 ・醍醐の森川崎公園の完備
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として位置付けを意識して、かなり広いスペースを確保し、多くの花壇から採取された花が飾られ、その壁に設置されている掲示板には毎月更新される季節感のある掲示を職員が利用者と共に作成されている。	○	・掲示板の作成 ・花壇の管理 ・掲示板作成
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループホームとしてはホールや廊下といった共有空間が広く、TVの回りスペースは、利用者総数より多く椅子があり、日の短い時期には、玄関近くでひなたぼっこができ、廊下の数箇所にテーブルと椅子が配置してある。	○	・廊下のテーブル・椅子の設置 ・広い玄関周り ・ホールの利用者より多い椅子

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>原則、居室には今迄使用していたものの持ち込みを推奨している。</p>	<p>○</p>	<p>入居の際、利用者の荷物を手伝っている。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>建物自体にオンピカシステムを導入し、常に新鮮な空気が供給されるようになっている。エアコンやファンヒーターを使用して屋内温度を調節し、各居室にもオンピカシステムが導入され、エアコンで温度調節を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>・オンピカシステムの導入</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>例えば、排泄に随伴症状が出ている場合、自宅のトイレの間取りと同様の居室を確保するようにしている。又、居室内も自宅と同じようにベッドや家具等の配置を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>・手すりの設置 ・自宅訪問 ・入居の際、利用者の荷物を手伝っている</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>畳敷きの居室であり、それまで布団で寝起きしていた場合、むやみにベッド及び介護用デッドはその利用者の能力を奪うことになるので使用せず、又自ら望む作業等は、転倒事故等が起こらないように見守りを重視して支援している。</p>	<p>○</p>	<p>・それぞれの利用者の能力に応じた福祉用具の活用 ・見守りの大切さ</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>天気の良い日は、施設の広い庭や花壇を散策できるようにしており、「こんないい施設に居られて幸せだ。」と利用者に思わせるように環境整備に力を入れている。</p>	<p>○</p>	<p>・徹底した環境整備 ・醍醐の森川崎公園の完備</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近隣住民や職員にとって地域に根ざした特定非営利活動法人として機能するよう、又利用者にとって施設全体が生活の場として機能するように心掛けている。その二面性を持って、介護保険事業所としてばかりではなく、「福祉施設」としての気概を持っている。

従って、社会福祉法の第4条に明記されている「地域福祉の推進」の為、地域に密着した施設として近隣住民に対しての自治会やその行事への参加や当施設の「夏祭り」や「クリスマス会」等の参加と協力の促進は、一人一人利用者の生活の場を当事業所の所在する地域に求めるという法人の掲げる理念をより高い位置に設定して、運営している。

それには、まず近隣の住民から信頼され、愛される施設にならなければならない。

よって、開所以来、近隣住民への「挨拶運動」から始まる。1,146坪を有する敷地内には、国民の血税である補助金や助成金を一切頼らず、建設されている為、資金的理由から施設内の備品も最低限に設備されていたものの、まだまだ必要とされるものが多いのも事実である。毎月行われる定例会議での話し合いによって職員の要望に従い、少しずつ、購入し、揃えているが、追着かない状態ではあるが、無い物は無いと諦めるのではなく、非常に多くのものを手作りしている。それらは、少しずつ理事長や職員や利用者、近隣住民の協力により、手作りされている。施設の南西側の手作りの洋風庭園を除けば、他の施設の大部分は、和を基調とし、理事長や職員が、コソコソと手作りしたものばかりである。そして常に環境整備が行われ、花壇やエントランスには、季節によって絶え間なく花が植え替えられ、その世話を利用者や近隣住民に協力してもらっている。

施設として犬と猫を飼い、散歩そのほかの世話を利用者と一緒に職員が行うほか、特に近隣の小学生が学校の行き帰りの合間に寄って犬の水や餌の世話をしてもらっている。

又200坪の畑を有し、職員と利用者と共に種まき、その育成、収穫をしている。その畑の管理の方法は、理事長や職員が近隣の住民である農家の人々から教授されたり、余った苗をもらったりしている。

普段からその協力をして頂いている地域住民に感謝し、還元する意味でも「夏祭り」や「クリスマス会」等を開催している。

そうした地域に開かれた施設の運営によって、地域福祉の推進を行うことの理念を実践することが可能であり、地域密着型サービスとしてのグループホームの存在意義があり、ひいては、近隣の住民のある種の病としての認知症に対する理解とその利用者に対して理解を促進させ、その偏見や差別を無くすことが入居している利用者の尊厳を守ることに繋がると確信する。